

日 付： 令和8年9月1日(火)		記 録 者： 北部地域障がい者相談支援センター
会 議 名： 令和8年度第2回地域生活支援拠点等部会報告		
場 所： 唐津市健康サポートセンターさんて3階大会議室		
時 間： 13:30 ～ 15:15		参 加 者 数： 27名
参加関係機関 別紙参照		
内 容		
1.部会長挨拶 本会は前回に続き「体験の機会等の機能」をテーマに、現場の合意形成・調整を <u>ロールプレイ</u> で具体化する方針を説明。 第1回幹事会・第1回定例会の報告		
2.あんしんネットワーク実施報告(事務局より) ・虐待案件での緊急短期受入や、事前登録後、円滑な施設利用への移行など、登録・情報整備が有効に機能した事例を報告。 ・一方で、家族の意向により緊急短期入所が実現しなかったケースもあり、家族調整の難しさも顕在化。		
3.障がい者基本計画・自立支援プランに関するヒアリング報告 ・横断的な主な意見：現場の人手不足・業務逼迫、外国人人材の登用、日常の「ちょっとした困りごと」への支援需要が指摘された。 ・分野別の主な課題・要望： ○保健・医療：医療費助成の現物給付化、特性を理解する専門医療の確保。 ○教育・人材育成：福祉人材不足に対し、高等学校への啓発や独自の人材確保策。 ○移動環境：JR和多田駅のエレベーター未設置、歩道整備、福祉タクシー券助成強化。 ○啓発・広報：相談先や必要情報が届かない問題に対し、SNS等によるプッシュ型広報の強化。 ○雇用：当事者・企業双方の理解不足に対し、実践的な就労準備支援や企業向け研修の強化。 ○地域生活支援拠点等：緊急受入の現場負担に対し、バックアップ体制や独自加算・補助制度の創設。周知強化が急務。 ・グループ意見交換での指摘： ○雇用分野の表現が当事者責任と受け取られかねないため修正を提案。 ○「相談支援員」の用語が不明確(計画相談支援員か等)との指摘。		
4.ロールプレイによる地域移行支援(体験の機会・場の機能)の具体化 テーマ設定と事例共有 ・重点目標「体験の機会」に基づき、60代男性Dさん(前回からの引き続き架空事例)の地域移行を事例にロールプレイを実施。Dさん本人が「他の施設を見たい、働きたい」と強い意思を表明。 ・課題：本人・家族の葛藤、現場の経験不足からくる不安、関係者間の相互理解不足が挙げられた。 ロールプレイの経過と合意形成		
1.本人の希望と家族の懸念： ○本人：グループホームで生活しながら仕事をしたいと強い希望を表明。 ○母親：環境変化による健康・金銭管理への不安から、現状維持を希望。 ○施設：初事例で進め方に不安があり、サポート体制を懸念。		
2.見学からのスタートで合意： ○支援者が介入し、急な移行ではなく、まずは関係者全員でグループホームを「見学」することから始める案を提示。 ○地域移行支援の活用も説明され、母親を含めた全員の合意を獲得。		
3.体験利用に向けた具体的調整： ○期間：1泊2日や2泊3日の短期間から複数回に分けて実施する方針で合意。 ○契約：体験利用も本入居者と同様の契約・重要事項説明を行う。 ○報酬：地域移行支援の体験利用として報酬面のグループホーム側のメリットも言及。 ○緊急時対応：Dさんは現施設に在籍中のため、夜間等の緊急時は施設が第一連絡先となり対応することで合意。		
4.体験利用の最終合意： ○関係者全員で、グループホーム体験利用を実施することで最終合意。 ○緊急時は現施設が対応する体制を再確認。本人は体験に前向きな意向を示した。		
部会の総括 ・今回のロールプレイを通じ、実運用における役割分担(契約、緊急時対応等)や手続きの不明点が浮き彫りになった。 ・次回までに、地域の共通ルールを1枚のフローチャートとして可視化する部会を開催する方針を確認し、閉会した。		